

令和 8 年度 事業計画書

Project report



学校法人 高田学苑

Takada Gakuen

Contents

法人の概要	… 2
建学の精神	
教育方針	
設置する学校	
令和 8 年度の主要な事業計画	
高田短期大学	… 3～7
Ⅰ、中・長期目標	
Ⅱ、令和 8 年度重点目標	
Ⅲ、教育・研究活動	
Ⅳ、地域社会貢献事業・公開講座など	
仏教教育研究センター	
介護福祉研究センター	
Ⅴ、令和 8 年度 短期大学 施設設備整備計画	
高田中・高等学校	… 8～17
1、建学の精神に基づいた教育推進事業	
2、生徒募集推進事業	
3、探究活動推進事業	
4、SSH推進事業	
5、ユネスコスクール推進事業	
6、キャリア教育推進事業	
7、生徒会活動・部活動の推進	
8、国際理解教育推進事業	
9、危機管理への取り組みの推進事業	
10、教職員資質向上への取り組み事業	
11、学校自己評価、自己点検推進、学校関係者評価委員会事業	
12、令和 8 年度 中・高等学校 施設設備整備計画	

法人の概要

建学の精神

本学苑は仏教精神を基として宗教的情操を培い、
人間性豊かな社会人を育成することを建学の精神としている。



教育方針

短期大学

本学では「教育基本法」ならびに「学校教育法」にのっとり、本学の建学の精神・教育の理念に基づいて、少子化・子育て困難、超高齢化、そしてIT化が進行する現代社会からの要請にこたえ、高度な専門知識や技術・技能を身につけて「やわらか心」で地域社会に貢献できる保育者、介護福祉士、オフィスワーカーを育成することを教育目標としている。

中・高等学校

真宗高田派の宗門立学校として、言行忠信・表裏相応を校訓とし、仏教教育による人間味の豊かさを深め、規律精神を基とした行動力の育成と基礎学力の充実錬磨につとめ、広い視野から社会に貢献できる人材の養成をめざした教育を行っている。また、中学校・高等学校一貫六年制コースを設置し、高い水準の学力と知的な生徒を育成している。

設置する学校

- | | |
|----------|---------------|
| ◆ 高田短期大学 | 三重県津市一身田豊野195 |
| ◆ 高田高等学校 | 三重県津市一身田町2843 |
| ◆ 高田中学校 | 三重県津市一身田町2843 |

I. 中・長期目標（令和4年度～令和8年度）

1. 建学の精神具現化・実践とその涵養

- 共通教養科目「人生と仏教」で客観的知識を学修し、仏教行事を通じて主体的に理解を深める。また、学内の宗教的情操教育の環境を整えていく。

2. 学生募集と大学運営

- 各学科募集定員の充足と確保
- 少子化と四年制大学進学志向による短期大学離れの傾向に伴う受験生の激減に対する戦略
- 魅力と活気のある大学運営とその可視化と発信
- 教員の研究による資質向上と学生の学力三要素による資質向上
- 子ども学科・キャリア育成学科オフィスワークコースにおける公務員合格者の増加
- キャリア育成学科介護福祉コースにおける介護福祉士の合格者の増加
- 外国人留学生の日本語能力試験N2の合格者の増加
- 高大教育交流の推進

3. 時代・社会の変化に即応した教育システムの改革・改善

- 教育の理念・目的・目標等の不断の見直し・検討
- 「三つのポリシー」の不断の見直し・検討とそれに基づく教育の実施
- 学修成果の具体的な把握・評価方法、より効果的な公示方法等の検討
- IRの推進
- 学修環境の不断の改善

4. エンロールメント・マネジメントの促進（総合的な学生支援体制の構築）と教職員の意識改革

- 学生支援に視座をおき、教員と職員が協力し合い（教職協働）、切磋琢磨し合う教育環境の構築
- 縦割りに終始しがちな各部署の業務に横のつながりをもたせ、各部署の情報を共有しやすくする、学生の立場に立ったトータルなサービスの遂行

5. ニーズに対応し、各学科・コースの特色を反映した実践的、体験的な地域連携の充実

6. 自然保育とSDGsに向けての周辺環境（山林）の有効活用

II. 令和8年度重点目標

1. 学生募集のあり方の検討と募集定員の確保

- 学生募集戦略の不断の検討
- 高田高等学校をはじめとした地域の高等学校との連携強化

2. 「教学マネジメント指針」（令和2年1月22日 中央教育審議会大学分科会）を参考にした教学マネジメントの推進

- 「ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）」「カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）」に基づく教育の実施
- ・ 「シラバス」と「カリキュラム・マップ」、「カリキュラム・マトリクス」に基づく授業の展開

- 主体的な学修者の育成
 - ・学修成果の可視化（ルーブリック・学修ポートフォリオ等）と活用の推進
 - ・「D P 到達度評価ルーブリック」による学生の自己評価の活用の推進
 - ・「アクティブラーニング型授業」の推進
 - ・I C T の活用
- 3. 全教職員一丸となつてのきめ細かな学生支援の充実
 - 学修及び短大生活の支援
 - 障害のある学生など、特別な支援を要する学生への全学的な支援体制の確立
 - キャリア支援（就職支援）
 - ・就労意欲の喚起と多様化する学生への支援の充実
 - ・公務員試験対策の充実とその成果の発信
 - 外国人留学生への支援
 - ・日本語能力試験対策の充実
- 4. 自然保育の充実と保育体験機会の拡充（子ども学科）
- 5. S o c i e t y 5. 0 に向けた A I 利活用の実践と人間力の育成（オフィスワークコース）
- 6. 介護福祉士国家試験の合格実績向上（介護福祉コース）
- 7. 地域連携の推進
- 8. リカレント教育の検討
- 9. 中・長期計画（令和4年度～令和8年度）の総括と次期中・長期計画（令和9年度～令和13年度）の策定

Ⅲ. 教育・研究活動

（１）学士力向上に向けた教育の質保証と A I 対応の推進（学務委員会、教務課）

「ディプロマ・ポリシー」達成のため、履修マップ・カリキュラムマトリクス・学修支援システム「A A A」を活用して授業の質的向上を図るとともに、学生自身が自己点検・評価を行える「内部質保証システム」の確立を目指します。また、「生成 A I 利用ガイドライン」を策定し、A I を安全・有効に使いこなし、技術革新に適應できる学生を育成します。

（２）主体性・協調性を育む短大生活支援（学務委員会、学生課等事務局）

高短生としての2年間が心身ともに健やかなキャンパスライフとなるよう、全教職員が一丸となり、多方面からの支援を行う取り組みを進めます。明るい挨拶や礼儀・マナーを大切にする中で、学生間や学生と教職員との適切な人間関係の構築を目指します。

学生の自主的かつ主体的な活動をより強力にバックアップし、学生自治会を中心として、学内行事及びクラブ・サークル活動の更なる活発化に努めるとともに、部員と顧問間のコミュニケーションがより一層深まるよう支援します。

また、多様化する学生の困りごとに対応するため2名の常勤職員（うち1名は臨床心理士）が配置された学生相談室（令和6年度開設）を中心に、今まで以上に円滑な学生対応ができるよう努めます。併せて、学生相談室の支援内容充実及び他部署との連携強化等により、学生支援の更なる充実を図ります。

さらに、外国人留学生が卒業後、地域社会で活躍できるよう日本語能力の向上をはじめ、様々な知識経験の修得ができるよう外国人留学生支援室を中心として支援の充実を図ります。

（３）キャリア教育の充実（キャリア支援委員会、キャリア支援センター）

教職協働をより一層進め、学生一人ひとりに応じたきめ細かなキャリア支援に努めます。そのために、キャリア支援委員会での協議や委員会に向けての学科別・コース別事前ミーティング、学修支援システム「ＡＡＡ」の活用により、教職員間の情報共有と意思疎通を図ります。

また、就職活動の早期化や公務員試験に対応するため、勤労意欲の喚起と計画的な支援を進めます。そのため、「就職講座」、「キャリアスタディ」、「キャリアガイダンスⅡ」、「公務員講座」等の取組をキャリア支援委員会で検証するほか、公務員希望者対象のガイダンスを充実させるなど、継続的に工夫・改善を図ります。

さらに、多様化する学生に対して、学生支援委員会や学生相談室等と協力し、保護者※や外部関係機関等との連携も視野に入れて、適切な支援に努めます。委託訓練生に対しては、多様なライフステージに対応した就職先の情報収集に努め、ハローワーク等と連携して適切に相談に応じられるよう支援に努めます。

※成人に達したのちにおいても、保証人の立場にある方を便宜上「保護者」と称します。

（４）学生募集と高大接続の推進（入試広報委員会、入試広報課）

学生募集に関しては、各学科の定員確保を最優先課題として取り組みます。そのため、高校生や保護者等が求める情報を的確に把握し、ＳＮＳを始めとする適切な媒体により時宜を得た発信を行います。また、高校生が早期から志望校を絞り込む傾向にあることから、早い段階で高校生と直接面談できるよう、業者主催のガイダンスや特別（体験・模擬）授業、その他見学会などの機会を極力増やしていきます。オープンキャンパスについても、高校生や保護者の視点に立った、学生を主体としたものにするなど、内容の充実を図ります。

高大教育交流事業については、連携協定校に、進路ガイダンスだけでなく探究活動や進路学習など、様々な学びについて提案や連携、協力をしていきます。特に、高田高校との連携強化に重点的に取り組みます。また、高校訪問についても、進路指導部だけでなく専門学科や学年との連携を密にして積極的に情報交流を図ります。

IV. 地域社会貢献事業・公開講座など

仏教教育研究センター

仏教教育研究センターの令和8年度の事業は、公開講座「高田本山寄附講座」として平成24年度から開講した仏教基礎講座と平成25年度から開講した仏教専門講座、そして研究会および寄贈図書の整理などを継続して開催します。

(1) 公開講座の開催

本年度は、真宗高田派教学院第二部会研究員で真宗高田派欣念寺（鈴鹿市安塚町）住職である田中明誠氏と当センター研究員である松谷慧光氏が講師を務め、真宗高田派本山高田会館ホールにおいて年2回、前期後期に分けて仏教教育研究センター公開講座を次のとおり計画しています。

○第1回（前期）

日 時：6月5日（金）13時30分～15時30分

講 師：田中 明誠 氏（真宗高田派教学院第二部会研究員、真宗高田派欣念寺住職）

テーマ：未 定

内 容：未 定

会 場：真宗高田派本山高田会館ホール

○第2回（後期）

日 時：10月13日（火）13時30分～15時30分

講 師：松谷 慧光 氏（当センター研究員、高田中・高等学校教諭）

テーマ：未 定

内 容：未 定

会 場：真宗高田派本山高田会館ホール

(2) 高田本山寄附講座の開催

○仏教基礎講座 8月17日（月）～21日（金）

仏 教 学	栗原 廣海	研究員	（高田短期大学名誉教授）
真 宗 学	松山 智道	研究員	（高田短期大学非常勤講師）
仏 教 史	金信 昌樹	研究員	（真宗高田派善昌寺住職）
真 宗 史	清水谷正尊	研究員	（高田短期大学学長）
高田の歴史と法宝物	栗原 直子	研究員	（真宗高田派誓元寺衆徒）

○仏教専門講座 4月24日（金）9：00～

仏教学概説	栗原 廣海	研究員	（高田短期大学名誉教授）
仏教学講読Ⅰ	清水谷正尊	研究員	（高田短期大学学長）
真宗学講読Ⅰ	金信 昌樹	研究員	（真宗高田派善昌寺住職）
真宗学講読Ⅲ	佐波 真	研究員	（高田中・高等学校非常勤講師）
高田の宗風	島 義恵	研究員	（真宗高田派聖洞寺住職）

(3) 研究会の開催

研究テーマ：「国宝・親鸞聖人筆『西方指南抄』の研究」

真宗の開祖である親鸞聖人が著された『西方指南抄』の研究書を発刊することを目的に毎月1

回研究会を開催しています。現在は、翻刻作業を進めています。

介護福祉研究センター

介護福祉、高齢者問題、障害者問題等に関する研究を行うとともに、地域社会への貢献と連携をめざし、地域福祉に寄与するために令和8年度は以下の事業を計画しています。

(1) 介護福祉セミナーの開催

○地域の方や卒業生を対象とした講座を予定

日 時：令和8年11月～12月の間の1日 13：30～15：30

(2) 介護職員キャリアアップ講座の開催

○介護職員を対象とした講座の開催

施設の介護職員や卒業生に参加を呼びかけ「研究初級講座」の開催

(3) 定例研究会の開催（場所：高田短期大学 介護福祉研究センター等）

○第62回定例研究会 6月開催予定

○第63回定例研究会 12月開催予定

(4) 地域に対する介護福祉啓発活動

○一身田桜町地区との連携事業

○認知症予防の日 啓発活動 他

(5) 施設との交流事業

高田短期大学介護福祉コースの学生ボランティアを中心に行います。

施設での「足浴」や「ハンドケア」を実施

(6) 研究紀要の刊行

○高田短期大学「介護・福祉研究」第13号を3月に発刊予定

(7) 他団体との連携

○全国障害者問題研究会との連携

○三重県文化会館との連携

○津市一身田青年団との連携

(8) 会議

○運営委員会 場所：本学介護福祉研究センター等 月1回開催

○センター会議 場所：本学介護福祉研究センター等 年2回開催（前期6月、後期12月）

V. 令和8年度 短期大学 施設設備整備計画

事業名	事業費	実施時期	備考
1号館外壁補修	未定	令和8年8月～9月（予定）	経年劣化による補修工事

高田中・高等学校

1、建学の精神に基づいた教育推進事業

仏教教育に基づく宗教的情操の涵養をめざし、週1時間の仏教の授業や月々の本山参詣、仏教講話などを実施することにより、豊かな人格形成と心の成長をうながし、生徒ひとり一人が命の尊さを深く自覚することに努めてまいります。

〔仏教行事の予定〕

4月15日(水)	本山参詣
5月21日(木)	宗祖降誕会
6月19日(金)	花まつり
7月 6日(月)	本山参詣
9月25日(金)	追弔会
10月 6日(火)	本山参詣
11月12日(木)	本山参詣
12月 9日(水)	本山参詣
1月12日(火)	報恩講
2月12日(金)	本山参詣
3月10日(水)	本山参詣

2、生徒募集推進事業

少子化への動きが見られる中、受験者数を維持するために、受験生やその保護者の方から安心と信頼を得て選ばれる学校にしていくことが肝要です。

高校入試では、これまで通りの各中学校訪問や学校説明会の実施に加え、中学1年生と2年生を対象とした見学会を開催します。中学入試では、入試説明会や学びのひろばに加え、幅広い学年の小学生を対象とした見学会や説明会を昨年度から実施しています。また、中高ともにホームページのリニューアルを行い、より伝わりやすいものにするるとともに、SNS、テレビ、ラジオ等のメディアを活用し、学校紹介やイベント告知を行うなど、外部への情報提供とPRを積極的に展開していきます。

〔高校見学会の予定〕

行事名	日程	対象
学校見学会	8月22日(土)	中学校3年生と各保護者1名
高校見学会	3月20日(土・祝)	中学校1, 2年生と各保護者1名
個別見学会①	10月 3日(土)	中学校3年生と各保護者1名
個別見学会②	11月 7日(土)	中学校3年生と各保護者1名
個別見学会③	11月21日(土)	中学校3年生と各保護者1名

[中学説明会・見学会の予定]

行事名	日程	対象
中学校説明会①	6月20日(土)	小学生と各保護者1名
中学校説明会②	8月6日(木)	小学生と各保護者1名
中学校説明会③	8月29日(土)	小学生と各保護者1名
中学校説明会④	10月17日(土)	小学生1年生～5年生と各保護者1名
中学校説明会⑤	11月21日(土)	小学生1年生～5年生と各保護者1名
中学校入試説明会	9月20日(日)	小学校6年生と各保護者1名
中学校入試説明会	10月3日(土)	小学校6年生と各保護者1名
中学校見学会①	6月6日(土)	小学生と各保護者1名
中学校見学会②	11月3日(火・祝)	小学生1年生～5年生と各保護者1名
私立中学校合同相談会	7月19日(日)	小学生3年生～5年生と各保護者1名
第1回学びのひろば	8月23日(日)	小学生4年生～5年生と各保護者1名
第2回学びのひろば	2月11日(木・祝)	小学生4年生～5年生と各保護者1名

3、探究活動推進事業

[3年制探究活動]



3年制では、「世界と社会を変えるために“知る”・“考える”・“行動する”」をテーマとし、段階的に探究活動を深化させます。

I年次は、模擬探究およびグループ探究を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能の習得を図るとともに、主体的かつ計画的に活動する態度を育成します。これにより、課題発見力および解決力、主体性や計画性の基礎を養います。

II年次は、個人探究とその成果発表を基本としつつ、関心や目的に応じて探究の進め方を選択できる体制を整えます。従来型の探究コースに加え、地域の大人メンターと協働して社会課題を探究するコース、企業パートナーと連携し実践的に探究するコースを設置します。さらに、必要に応じて、同一の課題や関心を共有する生徒同士がグループで探究に取り組むことも可能とします。外部人材や企業との協働、実社会との接点を通して学びを一層深化させるとともに、情報収集力、分析力、思考力および表現力の向上を図ります。

III年次は、個人研究をレポートとして取りまとめ、社会に向けて発信します。主体的か

つ協働的に探究に取り組む過程において、集団における自己の役割と責任を自覚し、相互の長所を認め合いながら、よりよい社会の実現を目指します。これにより、積極性、協働性およびコミュニケーション能力の育成を図ります。

◆Ⅱ年次のコースイメージ



【6年制探究活動】

6年制では、中高6カ年を貫く探究プログラムを実施します。内容につきましては、「4、SSH推進事業①中高6カ年を貫く探究プログラム」をご覧ください。

4、SSH推進事業



本校は、6カ年を貫く探究プログラムの開発（研究開発課題Ⅰ）と、中高一貫教育を活かした包括的理科教育課程の開発（研究開発課題Ⅱ）を中核とし、科学オリンピック等の課外活動（研究開発課題Ⅲ）、科学系部活動の充実（研究開発課題Ⅳ）、多様な教育課程外活動の開発（研究開発課題Ⅴ）を有機的に関連付けながら推進してきました。

I. 中高6カ年を貫く探究プログラムの開発

<目的>

中高6カ年を貫いた、科学的な探究を行うことを可能とするより効果的な探究プログラムを開発し、科学技術人材の育成を行う。また、探究プログラムを通じて、汎用的な探究スキルを身につけさせ、さらに主体性、創造性及び問題解決能力の育成を行う。

<期待される効果>

6カ年を貫く探究プログラムを開発して実施することで、生徒一人ひとりが自己を見つめて自らのもつ興味・関心に気づき、理工学系の進路を自ずと選ぶことが期待される。また、6カ年を通じて探究を行ってきた経験を活かし、大学以降においても社会の諸問題に立ち向かう先鋭的な科学技術人材として育っていくことが期待される。

II. 中高一貫教育における包括的かつ効果的な理科教育課程の開発

<目的>

理科の分野間や学年間で内容を適切に横断して、包括的で幅広い理科的・科学的知識を育成しながら、効果的な教育課程の開発を行う。また、その指導の指針となる、横断や内容の繋がりを示した6カ年指導ロードマップ、知識習得ルーブリック、及び横断的実験プログラムの開発を行う。

<期待される効果>

効果的な教育課程を実施することで、包括的で幅広い理科的知識・科学的知識を身につけられる。また、理科へのさらなる興味・関心を喚起することができ、このような科学の本質的な部分に触れ、興味をもった生徒の中から科学技術人材が輩出されると考えられる。

III. 科学オリンピック等に関する教育課程外の活動がもたらす効果の研究

<目的>

科学オリンピック等の対策講座や体験講座を課外活動として行うことで、各種科学オリンピック等への参加を促すと共に、生徒の理科への主体性に与える影響・効果の検証を行う。また、各種科学オリンピック等の普及活動を推進する。

<期待される効果>

多様な活動に積極的に参加していくことで、科学の面白さに気づき、より主体的に探究活動や理科の学習に取り組むようになると考えられる。このような経験を通じて、自らの興味や関心に気づき、幅広い視野をもって進路を選択する生徒が増えると考えられる。また、大会への出場機会が増え、幅広く中高生と交流することで多様な価値観を身につけられる。さらに、普及活動を通じて科学技術に生徒の意識が向いて、科学の裾野が広がり、こういった中から科学技術人材が輩出されていくと考えられる。

IV. 科学系部活動の充実がもたらす効果の研究

<目的>

科学系部活動を、主体的で、さらに充実した発展的な活動にする。また、教員の適切な働きかけのもとでの充実した活動が、生徒の理科への主体性にどのような影響・効果を与えるか検証する。

<期待される効果>

教員の適切な働きかけによって、科学系部活動に所属する生徒の主体性がより高められ

る。また、研究開発Ⅱで身につけた包括的な理科的・科学的知識を部活動内で活用することで、生徒自らが自身の理解度を再認識するきっかけにもなり、教育課程内の理科に対して主体的に取り組む態度がさらに向上して、生徒が自身の強みをさらに磨いていくと考えられる。その結果、将来の科学技術人材がより一層育成されていくと考える。

V. 多様な教育課程外活動の開発

<目的>

理科への深い興味・関心を抱く生徒を対象に、教育課程内だけでは行いきれない、多様な活動や実験を行う。また、文理融合的な総合知を身に付けるために、教科横断的なプログラムを開発する。さらに、高大連携講座の改善も行う。

<期待される効果>

課外活動は生徒の自主的な参加によるものであるため、生徒自身の興味・関心の気付きや主体性の育成に繋がると考えられる。また、高大連携によって、さらなる理科への興味をかき立て、より深い理解をもたらすことで、科学的素養の向上が期待できる。さらに、科学の歴史的背景やスポーツ科学等、他教科と関連した内容がきっかけとなり、より理科に対する興味が深まっていくことも考えられる。このような幅広い機会の設定が、特定の分野に偏らず、広い視野で世界の諸問題を捉えられる人材の育成に繋がると考えられる。

5、ユネスコスクール推進事業

本校は、ユネスコの理念に基づくユネスコスクールとして、持続可能な社会の担い手を育成することを目的に教育活動を推進しています。今年度は、E S D（持続可能な開発のための教育）の視点を踏まえ、3つの重点テーマに沿った事業を展開する予定です。

第1に、「地球温暖化防止のための環境学習」です。ゼロカーボンスクールをメインテーマに掲げ、2050年までにカーボンニュートラルの実現を見据えた学習を行います。校内の電力・水道使用量やごみ排出量の実態調査を実施し、数値分析を通して課題を可視化し、その上で、省エネルギー活動の企画・実践、再生可能エネルギーの仕組みの学習、専門家による講話などを通じて、環境問題を自分事として捉え、主体的に行動できる力を育成したいと考えています。また、12月に予定されているネパールの学校との交流「国際フォーラム」に向けた準備もすすめていきたいと考えています。

第2に、国宝を有する高田本山専修寺のおひざ元、一身田は、歴史と信仰が息づく寺内町です。私たちはその魅力を広く発信し、多くの観光客が訪れる活気ある街づくりに貢献したいと考えています。生徒たちが英語会話を学び、英語ガイドのボランティア活動にも挑戦し、インバウンド客の増加につなげられればとも考えています。お寺と町が一体となったこの町の歴史や文化を自らの言葉で伝えることで、学びを実践につなげるとともに、来訪者との交流を通じて地域の活性化に貢献していきたいです。

第3に、「韓国との食・文化交流」です。オンライン交流や手紙・動画による紹介活動、郷土料理の比較研究などを通じて、食文化の共通点や相違点を学ぶ計画です。異文化理解を深めるとともに、多様性を尊重する態度を育成したいと考えています。

これら3つの活動を有機的に関連付けながら、ユネスコスクールとして、SDGsの達成に貢献できる実践力と国際的視野を備えた生徒の育成を目指していきます。

6、キャリア教育推進事業

多様な現代社会のニーズを敏感に感受し、社会への協力・奉仕を積極的に志す人間性と能力を育てます。進路選択やその後の人生を歩むにあたり、偏向的な情報に惑わされることなく適切に対応できる情報リテラシーとともに、多様な価値観の下で柔軟に暖かな人間関係を築くことができるコミュニケーション能力と自己発信力を身に着け、自己の成長と社会の福祉を合わせて考えられる人間力の成長を期待します。そのために現代社会の日々変化する情勢や学問・研究とのかかわりに気づき、職業の意義・現状と自己の能力や適性、志向との調整をはかりながら、学びや働くことの目的、効果をしっかりと意識し、自己の生活のなかに重要なものと継続的に位置付けられるよう、各種の事業を推進・拡充をはかっています。

[令和8年度 医学部進学についての行事]

日 時	講 座	講 師	対 象
3月17日(月)	医学部進学ガイダンス	メディカル・ラボ	新6・高Ⅲ生徒・保護者
5月中旬	医療講座① 講演「医学研究の現状」	三重大学 奥川先生	6年・高Ⅲ生徒
6月初旬	医療講座② 講演「地域医療の現状」	三重中央医療センター 信岡先生	6年・高Ⅲ生徒
7月1日(水)	医療講座③ 2026年度医入試の振り返りと現状		6年・高Ⅲ生徒
7月15日(水)	医療講座④		6年・高Ⅲ生徒・保護者
11月中旬	医療講座⑤		6年・高Ⅲ生徒
1月下旬	医療講座⑥ 三重大医学部面接練習	メディカル・ラボ	6年・高Ⅲ生徒

[令和8年度 進学ガイダンス計画]

日 時	ガイダンス	協力	対象
5月15日(金)	大学個別相談会	T A P	高校Ⅲ年生
12月中旬	大学個別相談会	さんぼう	高校Ⅱ年生
3月中旬	大学学部説明相談会	ライセンスアカデミー	高校Ⅰ年生

[令和8年度 高大連携事業計画]

三重大学には、現在、以下の学部には講座のお願いをしています。この他の大学として、高田短期大学、皇學館大学、鈴鹿医療科学大学、豊田工業大学、名古屋市立大学にお願いする予定です。

日 時	講座	対象
7月上旬	三重大学工学部説明会	三重大学工学部
7月上旬	医学・医療を支える解剖生理学	三重大学教育学部
8月	リスニングの極意	三重大学教育学部
8月	物理基礎実験（磁石関連）	三重大学工学部
8月	レゴを使ったロボットプログラミング	三重大学工学部
8月	三重大学農場実習	三重大学生物資源学部
8月	光るタンパク質を調べよう	三重大学生物資源学部

7、生徒会活動・部活動の推進

〔生徒会・企画運営委員〕

＜方針＞主体的な行事運営と、学校全体のマナー意識の底上げ

- 諸行事の企画・実行：体育祭や文化祭などの学校の諸行事において、教員主導ではなく、生徒会が主体となって「企画から実行へ」と展開できる体制を構築します。
- マナー改善スローガンの作成：学校全体のマナー向上に向けたシンボルとなる「マナー改善スローガン」を作成し、一年間の啓発活動の柱とします。

〔生活委員会〕

＜方針＞気持ちの良い挨拶の定着と、自身の行動を振り返る機会の創出

- マナー改善の推進とアンケート実施：生徒会のスローガンと連動し、具体的なマナー改善に取り組みます。また、学期に一回「マナーアンケート」を実施して全校生徒の意識調査を行い、現状把握と改善に繋がります。
- 挨拶運動の展開：学校生活の基本である「挨拶」を活性化させるため、定例の挨拶運動を継続的かつ活発に実施します。

〔環境委員会〕

＜方針＞身近な活動を通じた社会貢献と環境意識の向上

- ペットボトルキャップ回収と医療支援：全校に呼びかけてペットボトルキャップの回収活動を推進します。集めたキャップを寄付し、世界の子供たちへのワクチン提供などの「医療支援」に直接的に貢献する活動を行います。

〔安全推進委員会〕

＜方針＞法令遵守の意識向上と、自他の命を守る知識の習得

- 交通安全と「青切符」の周知：自転車通学等の交通ルール遵守を徹底します。特に法改正に伴う自転車の交通反則切符（青切符）の対象となる危険行為について、全校生徒へ広く周知し、事故の未然防止に努めます。
- 防災および心肺蘇生の啓発：いつ起こるかわからない災害に備えた防災教育の推進や、いざという時に命を守るための心肺蘇生法（AEDの使用法など）の講習・啓発活動を行います。

〔クラブ活動（部活動）の推進方針〕

クラブ活動は、正規の教育課程外でありながらも「教育活動の一環」とであると重く位置づけ、学校としてできる限りの支援・補助を行っていきます。

○目的と人間形成

生徒の心身の健康増進と、自主的・自発的な集団生活を経験することを目的とし、将来にわたって影響を与える豊かな人間形成の場とします。

○「文武両道」の推進

学習とクラブ活動のどちらにも全力で取り組む「文武両道」をスローガンとして掲げ、バランスの取れた学校生活を支援します。

○外部指導員の拡充と公表

より専門的かつ安全で充実した指導体制を構築するとともに、教員の負担軽減も視

野に入れ、「外部指導員」の積極的な導入・拡充を図ります。また、この充実した活動環境や取り組みについては、学校内外に広く公表し、開かれた魅力ある部活動運営を目指します。

8、国際理解教育推進事業

令和6年に導入したターム留学プログラムはニュージーランドの学校に正規留学として在籍し、現地校の授業を受けるもので、語学力向上だけでなく、問題解決能力やコンピテンシーを育みグローバル社会への対応力を培うと共に、帰国後に学年のリーダー的存在として学校全体を活性化していく人材の養成を目的とします。

オーストラリアのセントモニカ校・パレード校とのオーストラリア交換留学、および令和7月に実施しているイギリス語学研修などの短期海外研修も、生徒の国際理解と国際協力への意識を高めるため引き続き実施をします。また、現地での研修の他に、姉妹校であるオーストラリア・セントモニカ校とのオンライン交流会や日本の大学・大学院に通う留学生を招いて種々のテーマでディスカッションやプレゼンテーションを行うグローバル・スタディ・プログラムを校内で実施し、英語の語学力や英語での発表力を強化する取り組みも積極的に行います。

[国際理解教育推進事業計画（案）]

期間	プログラム名	対象学年	人数
7月18日(土)～8月3日(月)	イギリス語学研修	中3・5年・高Ⅱ・高Ⅲ	約20名
夏休み中	姉妹校とのオンライン交流会	中3以上	約40名
9月12(土)～23日(水)	オーストラリア交換留学受入れ	高Ⅰ・4年	12名
12月下旬	グローバル・スタディズ・プログラム	中3・4年・5年	約30名
令和9年1月～3月下旬	ニュージーランドターム留学	中3	数名
令和9年3月中旬～下旬	オーストラリア交換留学訪問	高Ⅰ・4年	約15名

9、危機管理への取り組みの推進事業

自然災害の発生に対して危機意識と防災意識を高め、まず自己の命を守り、次に身近な人を助け、さらには地域に貢献できる防災教育に取り組んでいきます。

○避難訓練 令和8年11月11日(水) 実施予定

震度6の大規模地震および津波を想定し、一身田地区の住民と津北消防署と合同で安全防護訓練、応急救護訓練及び地震想定訓練を含む総合訓練として実施する予定です。

○防災用備蓄用品購入

防災用の備蓄品として日本非常食推進機構の「白い小箱」を入学時に購入します。防災学習と同時に障がい者への理解を学ぶなど、より広い学びを含んだ防災啓発活動に取り組みます。卒業時には無駄のない循環防災備蓄「白い小箱運動」の一環として、事業所や海外に寄贈します。

10、教職員資質向上への取り組み事業

新任教職員に対して、組織の理解と帰属意識の醸成から12項目に分けて校内新任研修を行います。その中で建学の精神を学び、学苑規定や学則を理解することで本校職員としての資質向上に努めます。また、人権教育、特別支援の考え方、生徒指導の在り方、教務業務の把握、危機管理の方法等を理解することで学校の全体像を把握し、業務の内容、組織構造などを理解することで、組織の一員としての自覚を促します。

[初任者研修 年間計画表 (案)]

	研修テーマ	獲得できるスキル・目的	実施日時	担当者
0	デバイス設定、アカウント登録	各ツールへのログイン	4月 2日(木) 14:00～15:00	ICT担当
1	高田の歴史と建学の精神について	グランドデザインの理解	4月 3日(金) 13:00～13:50	学校長
2	教職の実務 中・高の教務	教務内規の理解	4月 3日(金) 14:00～14:50	教務部長
3	定期考査での学習評価	考査における評価のつけかたの理解	4月 3日(金) 15:00～15:50	研修担当
4	コンプライアンス 学校の危機管理	服務規程とや教育法規の理解、危機管理の理解	4月 6日(月) 13:00～13:50	教頭
5	学校法人の規定について	規定集の認知	4月 6日(月) 14:00～14:50	事務局長
6	生徒指導	指導基準の理解	4月 6日(月) 15:00～15:50	生徒指導部長
7	進路指導	進路指導の理解	4月 7日(火) 13:00～13:50	進路指導部長
8	ALやAIを用いた授業デザイン	授業計画をデザイン	4月 7日(火) 14:00～14:50	研修担当
9	探究活動における教員の役割	総探の理解、伴走者としての役割の理解	4月 7日(火) 15:00～15:50	研修担当
10	SSH活動、ユネスコスクール活動	活動の理解	4月 13日(月) 15:00～15:50	各事務局
11	特別支援教育・カウンセリング	生徒実態、症状の理解	4月 15日(水) 15:00～15:50	養護教諭・カウンセラー
12	人権教育推進	人権活動の理解	4月 17日(金) 15:00～15:50	人権教育担当

全職員に対しては、8月20日(木)に研修会を行うなど各種校内研修を充実させます。また、校外研修等への積極的な参加を促し、教職員それぞれが研鑽を積み自己の資質向上に励むことができるような環境作りに努めていきます。

11、学校自己評価、自己点検推進、学校関係者評価委員会事業

本校では、教育活動の質の向上と、より良い学校づくりを目指し、去る令和8年3月13日(金)に「学校自己評価」を実施いたしました。本校の評価制度は、「学校評価」と「自己評価」の2つの軸で構成されています。教員自らが教育活動および自らの職務を振り返り評価を行います。学校全体の現状を正確に把握することで、組織としての課題を明確にするとともに、教員個々の研鑽と指導力の向上に繋げていきます。

また、外部の学校関係者評価委員による客観的な視点からの評価を実施しています。外部からの提言を真摯に受け止め、独りよがりではない健全な学校運営に努めます。

教員や学校が絶えず自省し、振り返りを継続することは、生徒・保護者の皆様、そして地域社会から信頼される私学であり続けるために、極めて重要であると捉えています。今回の評価結果を次年度の教育計画に反映させ、さらなる教育環境の充実に尽力していきます。

12、令和8年度 中・高等学校 施設設備整備計画

事業名	事業費	実施時期	備考
本館講堂空調機新規設置	11,990,000円	令和8年度中	
3・4・5号館／第2体育館空調機更新	167,530,000円	令和8年度中	
通話録音機能導入に伴う電話交換機の更新	3,894,000円	令和8年度中	
印刷室印刷機更新（2台）	1,300,000円	令和8年度中	
電子黒板プロジェクター	未定	令和8年度中	
ホームページリニューアル	3,000,000円	令和8年度中	

